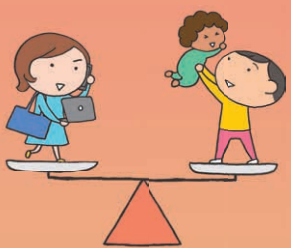


家事や子育ては誰がどのくらいやっていますか？



仕事も家事も子育ても、一人に偏らないようバランスをとり、みんなで協力して、男女同じように分担できていれば、ジェンダーは平等です。あなたの家庭ではどうですか？

4 40% RISK 5 50% RISK 10 100% RISK

# あなたから世界が見える

日本でも海外でも、男性だから・女性だからという理由で役割を押し付けられたり、何らかの差別を受けたり、自分らしい生き方を選択できないようなことがあります。これらの問題を一緒に考えてみましょう。

ジェンダーギャップって何ですか？

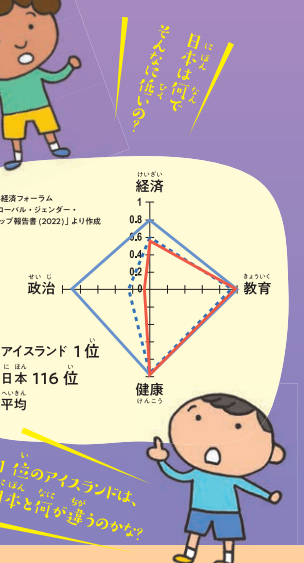
「ジェンダー」とは、生物学的な性別ではなく、「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」という社会の中でつけられたイメージや役割のことです。その男女の違いによって生じる格差のことを「ジェンダーギャップ」と言います。男女の格差を比べた「ジェンダーギャップ指数」の日本の順位は146개국中116位と、先進国の中では最低レベルでした。

世界では5人に1人の女の子が児童婚を経験しています

女の子というだけで、学校に行かせてもらえなかったり、大人になる前に知らないおじさんと結婚させられ、出産や家事をやらされたりするのが当たり前という国がいくつもあります。それどころか、人身売買の対象になったり、日常的に暴力を振るわれたりする女の子も少なくありません。

ジェンダーギャップ指数が低いと何が問題ですか？

女性の潜在能力が過小評価されがちで、先進国の中でも男女による給料の差が大きい国です。日本は「政治」「経済」の分野で男女平等ではありません。社長や国会議員など、意思決定層に女性が圧倒的に少ないのです。日本は、女性が圧倒的に少ないのです。日本は、女性の潜在能力が過小評価されがちで、先進国の中でも男女による給料の差が大きい国です。



まとめ 社会的・文化的につくられた性別イメージ「ジェンダー」によって、個人の権利や機会がうばわれることがあってはなりません。性別にかかわらず、すべての人々の人権が大事にされ、それぞれの能力や個性が発揮できる公平で平等な社会づくりに取り組むことが求められています。

目指そう！ お互いの価値観が尊重される社会 自分らしい生き方が選択できる社会

あーすぷらざ 神奈川県立地球市民かながわプラザ このかべ新聞はあーすぷらざのホームページからもダウンロードできます。

君のSDGsを探してみよう！